

参考文献リストの作り方

～参考にした資料ははつきりと～

1. 参考文献ってなに？

みなさんが書いているレポート。それを書くためには本や雑誌、辞典・辞書、ホームページなどの様々な情報を利用したはずです。新しいアイデアを考える時に、すべてを自分ひとりだけの力で生み出すことはありません。必ず何かを参考にしたことでしょう。

そのため、レポートを書く時に参考にした情報源については、必ずレポートの最後に一覧の形で書くことがルールとなっています。なぜそのようにしているかというと、みなさんが作成したレポートを読んだ人が、みなさんの主張を再検証するために、参考にした資料の情報が必要だからです。また、著作権を守るためにも欠かせません。

みなさんはすでに「情報メモ」を作っていますね。「情報メモ」の「出典」欄には、参考にした資料のデータが記録されているはず。これが参考文献です。

もし「出典」欄を書くのを忘れてしまっていたら、もう一度情報源を調べて、欄を埋めましょう。

情報メモとは…

調べた情報について、その内容をはじめ、キーワードや出典、考えたことなどをまとめておくメモ。本や雑誌、インターネットなど、メディアごとにまとめておくとさらに便利。

2. 参考文献の書き方

参考文献のリストは、図書、新聞・雑誌、インターネットといったメディアの種類ごとに分けて書いていきます。

みなさんが作った「情報メモ」には出典を書く欄があります。ここをきちんと書いてあれば心配ありません。参考文献リストを作るのは簡単です。

ポイント



- ・参考文献リストは最後に作ります。その際に、「情報メモ」からの写し忘れがないように気をつけましょう。
- ・ウェブサイトはどんどん情報が変わってしまいます。参照した日付を必ず入れるようにしましょう。

3. 参考文献リストの書き方

参考文献リストは本文とは別の紙に作ります。その紙をレポートの最後に付けます。レポートを作成するのに利用した資料は、全部書くようにしましょう。

リストに書く順番と書き方は次のようになります。

- (1) 図書の書式： 著者名『書名』出版社，出版年
- (2) 雑誌の書式： 著者名「見出し（記事名）」『雑誌名』巻号，ページ
- (3) 新聞の書式： 著者名「見出し（記事名）」『新聞名』発行日（朝夕刊），面
- (4) 論文の書式： 著者名「論文名」『書名』，出版年，掲載ページ
- (5) データベースの書式： 著者「記事タイトル」『データベース』リンク，参照日
- (6) ウェブサイトの書式： 著者「ページのタイトル」『トップページタイトル』URL，参照日

例：

<p>参考文献</p> <p>【図書】</p> <ol style="list-style-type: none">1. 剛田武『上手な歌の歌い方』太平洋出版，20222. 出木杉英才／編『勉強ができるようになる方法』天才大学出版部，2024 <p>【雑誌・新聞】</p> <ol style="list-style-type: none">1. 「ドラえもののひみつ道具」『毎朝新聞』2026年11月11日（夕刊），3面2. 野比のび太「ドラえもんとお過ごした日々」『月刊藤子不二雄』2019年1月号，p.5-10 <p>【論文】</p> <ol style="list-style-type: none">1. 源静香「ドラえもんの科学」『科学研究』12，2033.8，p.17-18 <p>【オンラインデータベース】</p> <ol style="list-style-type: none">1. 野比玉子「できない子を伸ばす」『△新聞データベース』 http://www.Δnews.com/****/，2028.3.3 <p>【ウェブサイト】</p> <ol style="list-style-type: none">1. 「2100年における乗り物の変化」『未来産業省』 http://www.****.go.jp/****/，参照日：2029.2.242. 骨川スネ夫『プラモデルの上手な作り方』 http://www.****.co.jp/****/****/，参照日：2029.1.10	<p>メディアの種類ごとに 著者の50音順に並べます</p> <p>メディアの種類の間は 1行あけます</p>
---	---